MACF 礼拝説教要旨
2021.03.28
【十字架の上での７つの言葉】
新約聖書の中にイエス・キリストの十字架上での言葉が７つ紹介されています。
その発言は祈りと叫びです。
これらの言葉が私たちのための祈り、私たちへの発言として理解される必要があります。
そして、イエス・キリストの臨終の言葉が私たちの死への準備のための学びとしても重ねることができることに気付かされます。

第一の言葉　【赦しの現実】
ルカ 23:34〔そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」〕人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。
※この祈りの中に、私たちすべてのための罪の赦しの嘆願がなされています。
イエス・キリストは全人類を代表して父なる神の前でこの祈りをお捧げになりま した。それは、嘆願にとどまらず、ご自身が「あがないの代価」そのものになって裁かれ、呪われて死ぬ事を意味していました。
赦しの祈りは、私たちのためにもなされました。
だからこそ私たちは赦されていることを確信し、心おだやかに人生を進めていけるのです。

第二の言葉　【永遠の同伴者キリスト】

ルカ 23:43 するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。
これはイエスと一緒に十字架につけられていた犯罪人の一人に向かって語られた言葉です。
彼は「23:42 イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と叫ぶのです。それに対する答えがこの箇所の発言です。
「わたしと一緒に」と言われているところに大きな慰めを感じます。名もない罪人であるこの人に「わたしと一緒に楽園にいる」と言ってくださる愛。
同様に、私たちの死も「孤立や孤独の死」ではなく、イエスに伴われる死なのだと理解することができます。
イエス様こそ、真実な、そして永遠の同伴者なのです。
私たちが死ぬまでのすべての時間、イエス様は私たちと共にいてくださいます。
そこに大きな安心感を得るのです。

第三の言葉　【地上の親への思い】
ヨハネ 19:26－27 イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。
それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」
そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

イエス様は十字架の上の苦難の中でも自分の母親へのケアを忘れませんでした。
そこにいた弟子に母親を託しています。
母親思いというか親への責任を最後まで果たそうとしている姿勢がここに教えられています。
これについては、私たちは生きている間に十分に時間をとって相談し、そのための書類なども準備する必要があるかもしれません。
でも、身内、親族、友人たちに「いてくれてありがとう。
あとはよろしく」と託して世を去ることができるとすればそれは幸いなことです。
何かを託せる家族や友人、仲間がいるということは幸いなことです。
時に、託すことが難しい場合がありますが、気をつけなければなりません。自分で握りすぎていないかどうかをチェックする必要があるかもしれません。イエス様は弟子たちに託しました。

第四の言葉　【受難。断罪・贖い】

マタイ 27:46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。
「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、
「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

これはイエス様の苦難の最高の場面です。
神に見捨てられるという苦しみの中で叫ばれたこの言葉は詩編 22 篇からの言葉ですが、骨という骨が痛み、肉という肉が痛み、聖なる神が顔をそむける暗闇の中に呪われ、落とされる苦難は人間が誰も味わったことのないものと考えることができます。
その苦難こそ、私たちの罪の身代わりのゆえでした。

しかし、実はこの叫びは、本来私たちが死の先で叫ぶべきものでした。
でも、キリストがそれをしてくださったので、
私たちは心穏やかに生き、また死の向こうを期待できるのです。
裁きも呪いもイエス・キリストの上にすべて落とされたからです。

第五の言葉　【裁きの厳しさ】

ヨハネ 19:28 この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渇く」と言われた。
こうして、聖書の言葉が実現した。

※詩篇 22 篇 16 節、詩篇 69 篇 22 節、詩篇 42 篇 3 節などはこの箇所と関連のある言葉なのです。
キリストの渇きは単に肉体的なものではありませんでした。
神との断絶からくる渇きだったのです。
こういう苦難を通過してくださった救い主のお陰で、私たちは自分の渇きをわかってくださる救い主を信頼し渇きの中でも希望をもって生きられるのです。
そして死の先に魂の渇きを経験する必要がなくなりました。おそらく死の際は肉体の渇きを経験することになると思いますが、魂は満たされているはずです。

第六の言葉　【あがないとなだめの使命完遂】

ヨハネ 19:30 イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。

これは、旧約聖書の預言をすべて成就して、贖罪の業を完成したという意味です。
そして、また人間として神に託されたすべてを完了した事を意味しています。
人間の死はそれまでのすべての作業を中断させるものです。
あれもこれも完成させたいと願っていてもその通りにならないのが人生であり、死の現実です。神に託された人生、果たすべき責務、役割、私たちはそれを死によって中断させられるのです。
「達成感」を味わえないことが多いのです。
しかし、主イエスが「成し遂げてくださった」ので私の人生を神は「完成品」として受け止めてくださいます。

第七の言葉　【信頼と平安】
ルカ 23:46 イエスは大声で叫ばれた。
「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」
こう言って息を引き取られた。

イエス様の十字架は苦難そのものですが、それでもイエス様は徹底的に神に近く、神に祈り、神に叫び、神を身近に感じながら臨終を迎えました。
すべての終わりに「感謝とともに、父なる神に自分の命と存在を委ねる」
　この潔さは、とても大切です。というのも、実は何から何まで私たちの全存在は 神の恵みによっても

たらされたものだからです。わたしの存在全てに対する所有権者はわたしではなく神様ご自身なのです。ですから、死は肉体を神様にお返し する日です。肉体はある意味では永遠に向かうための一時的な
借り物であり、死の先にある「永遠のいのち」こそ私たちへの贈与です。
 こういう形でイエス様の十字架と自分を重ねて見る時、心が軽くなる死の準備が できる事に気づきます。

しかし、これらの言葉から受け取るべき最も大切な内容は、イエス様が「私が通過すべき呪われ、裁かれるべき死を身代わりに通過してくださった」ということだと思います。そして、永遠の救い主、永遠の同伴者として今も、これからも支え、愛し、赦し、導いてくださるということです。
心から感謝して、イエス様を通して父なる神様を礼拝しましょう。
祝福がありますように。
＋＋＋＋＋
MACF 礼拝映像はこちらです。
 https://youtu.be/6w1qQv56n40